

り組み」,「プロフェッショナリズム教育のあり方」等について討議・検討を重ね、同時に様々な活動を行ってきた。

平成23年(広島大学),24年(慶應大学),25年(千葉大学)の日本医学教育学会大会でのシンポジウムの企画を担当,学会誌「医学教育」に「提言 医師養成課程におけるプロフェッショナル教育の導入と具体化について(宮田靖志・等)」、「医師養成課程におけるプロフェッショナル教育の現状調査(朝比奈真由美・等)」を発表。学会ホームページに,AAMC作業部会報告書翻訳プロジェクト「医療関連企業による医学教育への資金提供」翻訳版(宮田靖志・等),「ユネスコ生命倫理ケースブック」翻訳版(浅井篤・等),「生命医療倫理教育に有用な映画作品リスト」(浅井篤・等)を掲載。また,ケンブリッジ大学出版「Teaching Medical Professionalism」の翻訳,出版(宮田靖志・等,日本評論社)を行った。

平成21年から「白浜記念臨床倫理ワークショップ(浅井篤,大生定義・等)」,23年から「プロフェッショナル教育ワークショップ(宮田靖志,大生定義・等)」を企画・開催して,この分野の実践的取組みを広く紹介している。また,野村英樹・等が中心となって,山岸俊男(北海道大学),松尾 匡(立命館大学),長谷川真理子(総合研究大学院大学),水野里恵(中京大学),高橋英彦(京都大学),伊勢田哲治(京都大学),安藤寿康(慶應大学),山本真也(神戸大学),古市剛史(京都大学)氏を招聘して「医学教育シンポジウム(講演会)」を開催(5回)し,社会科学・自然科学的視点から利他性など倫理やプロフェッショナルリズムの原点を探っている。

副委員長:大生定義,浅井 篤,委員:朝比奈真由美,板井孝彦,河本慶子,野村英樹,尾藤誠司,三浦靖彦,宮田靖志,山崎祥光,門川俊明

6. 準備教育・行動科学教育委員会

和泉 俊一郎(委員長・東海大学医学部)

本委員会では,医療の受け手である一般市民が心置きなく専門的な知識・技術を享受できるようになるために,まず「人間中心の医学・医療」が確立されるべきであると考えている。その前提条件として必要な,医学専門教育前の準備教育について,内容や方法を吟味してきた。これまで(16期以前)は,文化人類学,社会学,臨床医学,日本語教育学,リハビリテーション学,人間関係論などに背景をもつ委員が討論し,「準備教育モデル・コア・カリキュラム<委員会版>」を試作した。今期は,それを集約して見える形にすることを第1の目標としている。

また,今期からは「準備教育」の定義を,専門教育に入る前の準備教育(狭義)ではなく,社会

に出る前の準備教育(広義)と認識しなおしている。これは,国際認証に耐えうるカリキュラムを指向する医学部では,準備教育のあとに専門教育という構造ではなく,準備教育に属する人文・社会学が楔状にカリキュラム化され,専門教育科目と同時に学習されることが理想と考えられるからである。今期の委員会では,「準備教育」とは社会に出る前の準備教育(広義)であり,それにふさわしい「生涯学習準備教育モデル・コア・カリキュラム」を次期に策定するべく準備活動をしている。また,この準備教育(広義)カリキュラムでは,前期からの考えでもある「人間の科学」「社会の科学」を重要と位置づけているが,その学習の方略に行動科学を主軸に据えるべきとの意